

## (2) 地域の概要

### ①歴史的にみて

学区には、正慶2年(1333)創建の、その美しさに“見返りの塔”と別名される国宝大宝寺三重塔があり、国寺内の十一面観音、普賢菩薩の二仏像と厨子・須弥壇は国の重要文化財に指定されている。加えて歴史の道、東山道が学区内を通過し、延喜式に記されている「浦野駅」があり、中世の牧場「塩原牧」と関係の深い式内社子檀嶺神社、また当地方を拓いた、先駆者の墳墓と想定される塚穴古墳など、数多くの歴史的遺構遺物が存在し、これらのことからこの地域は古くからの文化地帯であったことを物語っている。

近世この地域に発生した、百姓一揆は八件を数え、一藩での件数としては、日本最多である。一揆は封建制度下に生きる農民の権力に対する唯一の反抗であるが、自分の身命をなげうって郷土と正義につくした先人の行為は地域の誇りとして今もなお人々の心の中に息づいている。

### ②地理的にみて

青木村は長野県の東北部、上田市の西にあり、北に子檀嶺岳、西に十観山、滝山、南に夫神岳、大明神岳と、1200mから1600mの山に三方を囲まれた山間地帯にあり、総面積の80%は森林原野である。

標高差は頭部の村境の500mから滝山頂上の1627mまで1100mにおよんでいる。三方の山から流れ出す三つの川に沿って平地がつくられ、北、西、南面は複雑な段丘になっている。青木村はこのような地形の中に集落、耕地がつくられた農山村である。

地域産業は以前は豊富な森林資源を活用した産業が盛んであったが、木材需要の低迷により、次第に衰微し、今では米、果樹、菌類などの農業が主である。

しかし時代の流れとともに兼業農業が増え、保護者の約80%以上は、上田市やその他への勤め人である。

